資料4－2

１　計画の主旨

（１）黒須銀行の概要

黒須銀行は、日本弘道会の始祖西村茂樹の「国民道徳論」に共鳴した繁田満義が主導して設立した黒須信用組合の積立金を元に明治３３年(1900)に創業し、明治後期から大正期にかけて製糸業や織物業、茶業など地域の産業振興に貢献し、人々から「道徳銀行」と呼ばれた銀行である。「道徳銀行」とは、資本が庶民の勤倹貯蓄の結晶を元としていること、経営が信義を重んじ、利益一辺倒でなく自他共利を信条とし、社会事業や学校に寄付をするなど道徳主義に基づいていること、役員が道徳団体の会員であることなどに由来する。行章の「丸に信」は信義を標榜したものである。

黒須銀行は入間郡域に３支店(川越町・入間川町・松山町)と１出張所(所沢町)を有し、一時は県下第３位の銀行に成長したが、大正１１年(1922)に武州銀行と合併して武州銀行豊岡支店となり、現在の埼玉りそな銀行に繋がっている。役員には、製茶直輸出会社「狭山会社」を立ち上げた繁田満義や、教育者で社会事業家の発智庄平、豊岡町長の繁田武平、衆議院議長になった粕谷義三、石川組製糸所創業者の石川幾太郎など入間市の近代史を代表する人たちが関わっている。顧問には「日本の近代資本主義の父」と呼ばれる渋沢栄一や、横浜の大谷嘉兵衛、東京の長井利右衛門といった大実業家らが就任している。渋沢栄一は、黒須銀行が自らの主義とした「経済と道徳の合一」を具現化していることを喜び、「道徳銀行」と揮毫して贈っているが、その経営理念は現代にも通じるものである。

旧黒須銀行本店営業所建物(以下「旧黒須銀行」と記す)は、明治期の地方銀行に特徴的な土蔵造りで建築史的にも貴重なことから、平成２年に入間市指定文化財に指定された。

旧黒須銀行が立地する黒須地区は、室町時代は黒須川村、江戸時代は黒須村という入間川渡河地点にあたる村で、日光脇往還と江戸秩父甲州往還が交わる交通の要衝であった。豊岡町となった明治以降は、製糸・織物・製茶といった産業が発展した。

そのような歴史的背景から、黒須地区には、旧石川組製糸西洋館（国登録文化財）や武蔵豊岡教会（W.M.ヴォーリズ設計）、蓮華院観音堂（市指定文化財）などの歴史的建造物、西山荘ストリート（繁田醤油株式会社）や繁田家長屋門といった関連する建物も残っているほか、明治期から続く茶舗や鋸屋根の織物工場など歴史を物語る建物も点在している。

（２）計画策定の主旨

「入間市第６次総合計画（平成２９年度～令和３年度）」では、「近代化遺産の保存・活用」として、「『西洋館』『旧黒須銀行』等の近代化遺産の保存、両施設が一体となった魅力ある活用事業の実施などに取り組みます。」としている。また「第２期入間市教育振興基本計画（平成２９年度～令和３年度）」では、「近代化遺産の保存・活用」として、「西洋館・旧黒須銀行の計画的な修繕を実施し、文化財としての保存を図るとともに、両施設が一体となった魅力ある活用計画を策定し、様々な事業を実施していきます。」としている。「入間市都市計画マスタープラン（平成３１年３月）」では「地域別まちづくりの方針１豊岡地区」における将来目標は「質の高い都市景観を有したまちの顔づくり」としており、「地域整備方針」として「西洋館や旧黒須銀行、武蔵豊岡教会などの歴史的建造物がある地域については、景観の保全と活用を図ります。」としている。

西洋館は、平成２９年度に保存活用計画の策定と改修工事を行い、平成３０年度から一般公開と様々な事業を展開し活用している。

一方「旧黒須銀行」は、現在老朽化が進み、本格的な活用ができない状態である。市民からも早期の復元修理を望む声が寄せられている。このたび策定する「旧黒須銀行保存活用基本計画」は、上記三つの計画に基づき、西洋館や黒須地域の歴史的建造物と共に「旧黒須銀行」を保存・活用することで、地域の歴史をものがたり、まちのアイデンティティを伝える文化財を未来へ残していくために定めるものである。

２　施設の概要

（1）建物名　旧黒須銀行

（2）所在地　入間市宮前町 5 番 33 号(土地表示：宮前町 1125 番地)

（3）建築年　明治４２年（1909）４月竣工

（4）面積　　土地：813.47 ㎡（245 坪）　　建物：236.02 ㎡（71 坪　延床面積）

（5）施設内容

・主屋　延べ面積　142.12 ㎡（1 階 82.63 ㎡　2 階 59.49 ㎡）

（木造、土蔵造り、2 階建、外壁塗廻、漆喰仕上、屋根桟瓦葺、寄棟）

・付属屋　延べ面積　57.95 ㎡

（木造、平屋建、土蔵造り、屋根桟瓦葺、寄棟）

・増築部（年次不詳）　延べ面積　35.95 ㎡

（木造、平屋建、塗屋、屋根桟瓦葺、切妻）

（6）文化財の指定等　　入間市指定有形文化財（建造物）　平成２年(1990)４月１日

（7）文化財の指定理由

入間市においては、明治、大正、昭和初期時代、経済の基本を支えた銀行の建物は、地元金融史を知る上で歴史的な意義を持っている。当時の土蔵造り様式や明治の建築物が数少なくなった現在、一部補修はあるが、明治のおもかげをよく残すこの建造物は貴重である。

３　~~現在までの経過~~黒須銀行と本店建物の歴史

明治３３年(1900)	２月	２月１１日株式会社黒須銀行が創立し、３月５日より現在地にあった豪農某氏の茅葺の~~商家~~住宅（~~借家~~質屋）~~で~~を借りて営業を開始する。
明治４２年(1909)	４月	４月現在地に~~新営業所~~本店が竣工し、５月３日から営業する。
明治４４年(1911)	８月	川越支店開業する。
大正　７年(1918)	１１月	松山支店・入間川支店開業する。
大正１１年(1922)	１月	武州銀行に合併し、武州銀行豊岡支店となる。
昭和１８年(1943)	７月	埼玉銀行豊岡支店となる。
昭和３５年(1960)	１１月	埼玉銀行豊岡支店が豊岡地区に移転する。
昭和４０年(1965)	３月	武蔵町(現入間市)が埼玉銀行から建物を借用し、「武蔵町立郷土民芸館」として開館する。
昭和５２年(1977)	７月	埼玉銀行から土地・建物が入間市に寄贈される。
平成　２年(1990)	４月	入間市指定文化財となる。
平成　２年(1990)	６月	入間市郷土博物館等建設審議会答申において、博物館(二本木)への移築復元構想が示される。
平成　６年(1994)		入間市博物館の開館に伴い、入間市郷土民芸館が閉館して非公開となる。
平成１８年(2006)	１０月	特別公開を開始する。（当初の公開日数は年１日。現在は６日間。平成３０年度までの来場者７，２７２人）

令和　元年(2019)　５月　　竣工１１０周年記念特別公開を実施する。

令和　元年(2019)　５月　　「旧黒須銀行保存活用庁内検討委員会」から「旧黒須銀行の保存と活用についての方向性」が報告された。